

もともと膠原病の中で全身性エリテマトーデスなどにみられる梅毒反応の擬陽性(本来はかかっていない梅毒に陽性に出る反応)の研究から、リン脂質という物質に反応する抗体を持つ方をリン脂質抗体陽性といいます。他の膠原病に合併するものとは別に、基礎に膠原病がなくこの症状を呈する人が10,000名いると考えられ、原因も治療も確定していないため今回難病の指定を受けました。

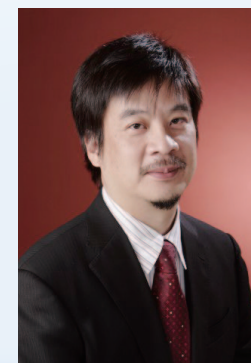
検査では血が固まりにくくなるデータをしめす(専門的にはaPTT延長)ものの、臨床的には血が固まりやすくなり全身に血栓を生じます。血栓性静脈炎、肺梗塞、肺高血圧などの静脈系と皮膚潰瘍、内臓梗塞、脳虚血、眼の網膜動脈血栓などの動脈系の双方を損ないます。また、血小板が低くなることも多くみとめます。

治療は原疾患の膠原病に準じますが原発性の場合抗凝固剤投与を中心に治療を進めることとなります。病気の予後はその病気が発症する部位つまり臓器によるところが大きく、とくに急速に多臓器梗塞をみとめるcatastrophic APSは予後が悪くなります。診断は検査でループスアンチコアグラント、抗カルジオリピンβ2—GP複合体抗体などが複数回、12週間以上の間隔を置いて陽性となることで診断します。この疾患のもうひとつ大きな問題は、10週以前の習慣性流産の原因であることが少なくないことです。そういった場合は抗凝固治療を行うことで流産が予防できることも有り、産科医師と内科専門医の連携が必要な疾患といえます。

当面発表された疾患から膠原病関連の難病を列記させていただきました。今後

300を超える疾患が難病として認定されることも有り、珍しい病気といわれているかたのなかで、適切な医療費補助を受けながら難病対策の進展に繋がることが多いと考えます。

今まで難病指定を受けていた方にとってはおのこの疾患に重症度という概念が入ってくるなどやや不利益に見える面もありますが、国の難病対策としてご協力よろしくお願ひします。



にしおか内科
クリニックRA 院長
西岡 雄一

専門分野は関節リウマチ、痛風、気管支喘息、漢方薬治療。地元のファミリードクターとして、一般内科も診察。ラジオドクターとしても活躍中。